

(別紙様式)

平成 28 年度 北極域研究共同推進拠点 共同研究等報告書

申請区分: 萌芽的異分野連携共同研究 共同推進研究
産学官連携フュージビリティ・スタディ
共同研究集会 産学官連携課題設定集会

研究課題名: 中央北極海における国際科学協力に関する研究集会

研究期間: 平成 28 年度

共同研究員	氏名	所属・職名
研究代表者	大西富士夫	日本大学国際関係学部・助教(H27年2月1日から北海道大学北極域研究センター・准教授)
研究分担者(拠点外)	大久保彩子	東海大学海洋学部・准教授
研究分担者(拠点内)	齊藤誠一	北海道大学北極域研究センター・同センター長兼教授
	山村織生	北海道大学水産科学研究院・准教授
	平譚享	北海道大学水産科学研究院・准教授
研究協力者(拠点内)	菊地隆	海洋研究開発機構・主任技術研究員

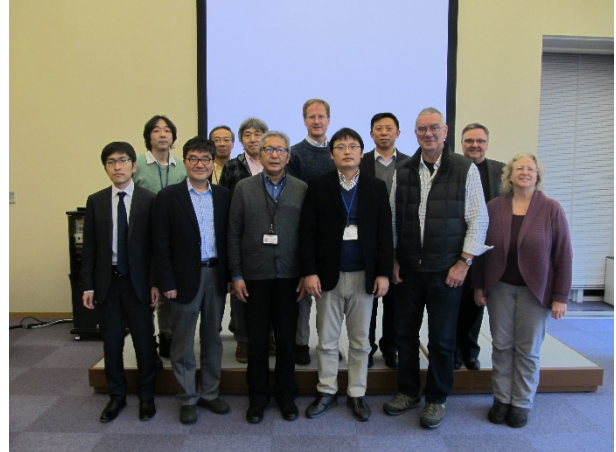
【研究の内容】

本研究集会では、平成 28 年 12 月 16 日から 18 日かけて、北海道大学北極域研究センター、ピュー・チャリタブル財団の後援のもと、中央北極海における国際科学機関の設立と題するワーキング・セッションを開催した。本研究集会に先立って、無規制商業漁業の防止についての研究者レベルの検討会合が、中国同済大学(上海)、韓国極地研究所(仁川)において、2回開催されてきた(前者が 2015 年 1 月 15 日 16 日、後者が 2016 年 3 月 30 日、31 日)。本集会では、これらで得られた議論を集約し、また、現在、中央北極海における無規制商業漁業の防止に関する政府間交渉(米国、カナダ、ノルウェー、デンマーク、ロシア、日本、韓国、中国、EU、アイスランド)を念頭におきつつ、科学者のレベルで、より公平で環境保全を重視した科学的機関の設置の検討を促す提言書を策定することを目的としたものである。この目的のため、カナダ、米国、日本、韓国、中国から本課題を議論するのに相応しい専門家を少数選抜し、チャタムルール方式でのワーキング・セッションという形式によって、国際科学的機関の設置についての提言のための集中的な審議を実施した(参加者は全 13 名)。

本研究集会での結果、得られた主要な結論の概要は以下の 3 点である。

- 中央北極海において、また、必要に応じては近接する国家管轄海域(沿岸国が主権的権利を有する海域)を含めて、独立した国際的科学的機関が必要であること。同機関は、対等な立場からなる政府によって設立されるべきである。

- 科学機関においては、中央北極海における海洋、生物、海水減少の影響、その他の生態系に関するその様々な現象についてのより良い理解を得ることを目的としたエコシステム・アプローチが取り入れられるべきであり、将来行われるであろう同海域における漁業に関する意思決定に情報を提供すること。
- 科学調査の策定と実施に関する条項には、先住民と諸団体の積極的な参加を確保すること。



本研究集会で得られた成果は、前2つの中国及び韓国における専門家会合の成果も含めて編集した最終版報告書 *Preventing Unregulated Commercial Fisheries in the Central Arctic Ocean: A Compilation of Reports from Meetings of Experts in Shanghai (China), Incheon (Korea), Sapporo (Japan)* という文書に纏められた(添付資料参照)。今後、同提言書を関係する国際学会、国際シンポジウム、また、関係機関のウェブサイトにおいて適宜公表していく。また、今後、無規制商業の防止に関する政府間交渉にもインプットしていくことを関係者と検討していく。

【研究論文や著書等】

1)大西富士夫. 2017年. 北極をめぐる新しい動き. 海洋白書 2017, 2017年3月末出版予定. (査読無)

【研究発表】

1)大西富士夫. 北極国際政治からみた米国の北極外交戦略-汎北極多国間主義から区分的多国間主義へのシフトか. 第2回北極の未来に関する研究会, 2016年11月28日, 千代田区笹川平和財団.

2) Fujio Ohnishi. 2016. Readjustment or fragmentation? Prospect of Arctic Concert System. Conference on the Geostrategic Transformation of the Arctic in an Age of Growing Uncertainty, 2016年2月17日, 吹田市大阪大学.

3) Fujio Ohnishi. Fujio Ohnishi. 2017. Is the Arctic Concert System ebbing away?. Slavic-Eurasia's Northern Tier: Finland, Russia, Japan, 2017年3月3日, ヘルシンキ市ヘルシンキ大学.

【特許等】

該当なし

【アウトリーチ、取材、その他】

今後、適宜公表していく。